

多くの世界的ビジネス・パーソンが活用する システム手帳「フランクリン・プランナー」

INTERVIEW

フランクリン・プランナー・ジャパン株式会社 代表取締役社長 湯本秀昭
セミナー事業部ファシリテーター 赤荻 聡
税理士法人クリアー 代表社員 税理士 栗原邦夫





■湯本秀昭 (ゆもと・ひであき)

フランクリン・プランナー・ジャパン株式会社 代表取締役社長。ナカバヤシ株式会社 取締役。昭和34年生まれ。昭和59年、ナカバヤシ株式会社入社。仙台営業所長等を経て、平成24年、取締役に就任。現在、常務執行役員。同社口アス営業部長、関連営業部長、製販カンパニー長兼製販営業部長兼関連営業部長を兼任。

10年前の手帳ブーム以降、さまざまな手帳が生まれてきたが、その原型ともいえる手帳が「フランクリン・プランナー」だ。成功哲学書として有名なステイブ・R・コヴィー博士著「7つの習慣」の中で提唱されている時間管理法を実現するために開発されたシステム手帳である。知的生産性を大きく向上させるツールとして、世界中のビジネス・パーソンに支持されている。そこで今回、同手帳の販売、およびこの手帳を活用したタイム・マネジメント・セミナーを展開しているフランクリン・プランナー・ジャパン株式会社 代表取締役社長の湯本

秀昭氏、およびセミナー事業部の赤荻聡氏に、その仕組みと効果について伺った。併せて、この手帳を活用して税理士業務に大きな成果を上げている税理士法人クリアー代表税理士の栗原邦夫氏に、その活用法と会計事務所業務改善への期待について伺った。

フランクリン・プランナー普及に向けたセミナー事業を展開

——生産性向上に大きな威力を発揮するといふシステム手帳「フランクリン・プランナー」。

が生まれ、そこで誕生したのが、フランクリン・プランナーです。

現在では、フランクリン・プランナーは、「7つの習慣」を実践する手帳として知られていますが、当時の時間管理の概念を大きく変える画期的なもので、知的生産性を大きく変える生産性を大きく向上させるツールとして、世界中のビジネス・パーソンに支持されました。

——フランクリン・プランナー・ジャパン株式会社ではどのような事業を展開しているの

しょうか。

赤荻 当社は、このフランクリン・プランナーの販売、および時間管理に関する研修を日本で展開しています。もとは、20年ほど前からフランクリン・コヴィー・ジャパン社にて販売、7年前に手帳事業が親会社のナカバヤシ株式会社に事業譲渡となり、フランクリン・プランナー・ジャパン株式会社として事業展開開始。その後、コヴィー社からタイム・マネジメント・セミナーの事業譲渡を受け、法人、個人にセ

ミナーを提供しています。

現在、手帳とセミナーの事業を行っています。が、手帳事業については、一般のお客様への販売が中心で、ウェブによる通販事業のほか、専門店を通して販売を行っています。また、セミナー事業では、手帳と連動したタイム・マネジメントに特化したセミナーを開いています。

——セミナーはどのような形で開催されているのですか。

赤荻 これまでは、代理店を通して主に企業向けに展開してきましたが、最近では、個人向けのセミナーにも力を入れています。東京を中心に時間管理セミナーを開催するほか、手帳の使い方に関しては、ユーザー様に向けて、直接私たちが勉強会形式でセミナーを開いています。以前は、手帳の使い方のノウハウをお伝えするのに本を使っていたのですが、それでは十分だということで、セミナー、さらにはDVDを活用してお客様に考え方やスキルをお伝えしています。

第4世代の時間管理ツール「フランクリン・プランナー」

——フランクリン・プランナーは、ほかの手帳とどういった点が異なるのですか。
湯本 これまで時間管理ツールとしての手帳は、

フランクリン・プランナー・ジャパン (http://www.franklinplanner.co.jp/)

フランクリン・プランナーの基礎
タイム・マネジメント
フランクリン・プランナーの活用事例



■栗原邦夫（くりはら・くにお）

税理士法人クリアー 代表社員。税理士。昭和40年生まれ。会計事務所勤務を経て平成16年に税理士登録をし、独立開業。既存の会計事務所の固定観念を覆す親しみやすい雰囲気の仕事作りで注目を集める。「ハリウッド映画のような脚本と演出をビジネスセミナーに」というコンセプトで、「ハリウッドプレゼン」を主宰。自らのセミナーはもちろん、そのノウハウをセミナー講師に伝授する講座やコンサルティングも大好評を博す。オスカープロモーション所属。

時代の流れとともに進化してきました。単なるメモとしての第1世代、さらにスケジュール管理の要素が加わった第2世代。これは、ご家庭のリビングにあるカレンダーや企業の壁にかけられている予定表をイメージすると分かりやすいでしょう。通常、手帳の機能としてはここまでです。多くの人は手帳を自分のスケジュール管理やToDoリストとして活用しています。

その後、ビジネスの生産性を上げることを主な目的に、目標管理や能率・効率を追求する第3世代のタイム・マネジメント・ツールが生まれました。手帳で目標管理をしたり、プロジェクト管理やToDoリストとして活用しています。

フランクリン・プランナーは、スケジュール管理をするだけの手帳ではありません。自分の最も大切にしていることを明確にし、それを実行するためにシステム化された手帳です。

個人でいえば価値観、企業であれば理念、そういったものを心に描き、本当に理解し、それを基に目標、計画を立て、日々の行動に落とし込んでいく仕組みになっています。

具体的には、どのようなコンテンツがあるのでしょうか。湯本 「いつ、何を、どのように行うのかしっかりと計画を立てて、それをマンスリー、ウィークリー、デイリーといったスケジュール表に落とし込んでいくプロセスを用意しています。自分に合ったタイムスパンで計画し、管理することができるとは思います。

クトを管理したり、タスクに優先順位を付けたりと、第2世代までとは明らかに異なる機能を持っています。現在多くのスペシャルな機能を持った手帳が出ていますが、ほとんどがこの世代に入るものです。これらの手帳によって、多くのビジネス・パーソンは自分の目標や特定の目的を達成するサポートツールを得ました。

しかし、現代のような複雑にネットワーク化された社会において、高度な仕事、多様な価値観、将来への不安、過度なストレスなどに対応しながら、仕事の生産性を上げ、本当の満足感を得ることは、第3世代ツールでは難しくなっています。

赤荻 企業規模問わず、多くの企業に、会社として時間管理の考え方やフランクリン手帳を取り入れていただき、有効にご活用いただいております。また部署単位や事業所単位で、共通の手帳を使用することで、共通言語で仕事をマネジメントすることに繋げ、チームとしての生産性を上げている組織もあります。

湯本 10年ほど前に起きた手帳ブームでは、さまざまな会社が、目標管理やキャリアデザイン、タスク・マネジメントなど、いろいろな切り口で手帳を販売し、企業でもそうしたメソッドを導入されたところがありました。そのほとんどはフランクリン・プランナーのタイム・マネジメントの考え方が原型になっていると思われ

**価値観を見つめ直し、優先順位を考える
タイム・マネジメント・ツール**

フランクリン・プランナー・ジャババンドは今後、会計事務所へも手帳の活用を働きかけたいとお考えだそうですが、その意図についてお話しください。

ています。より深く自分自身と向き合うことや向かうべき方向の明確化、自己成長欲求への対応、何よりも豊かな人間関係の構築がなければ、本当の人生の充実はありません。

こうした課題を解決するために、第4世代として真の時間管理ツールが誕生しました。具体的には、ハイラムが提唱していた、生産性のピラミッド（価値観の明確化、目標設定、1週間の計画、日々の計画）という4つのプロセスを持ち、「7つの習慣」で提唱されている、重要なことを実行するための「時間管理のマトリックス」の概念が取り入れられた、フランク

赤荻 あらゆる仕事に共通することとは思いますが、中でも土業、特に会計事務所さんは、繁忙期と閑散期の差が激しく、また、属人的要素が強い仕事であるため、より業務の効率化が大きな課題になっていると伺っています。

そこで、フランクリン・プランナーを活用して価値観や理念を見つめ直し、本当の重要事項を明確にし、やるべきことを計画し、実行することで、業務の生産性は飛躍的に高まり、繁閑の波を平準化できることにも繋がるのではないかと。そして何より自分の人生全体と向き合いますから、仕事とプライベートのライフバランスも整えることができます。そのような思いです。

栗原 実際に、本日ご同席の栗原先生は、この手帳を活用されてかなり成果を上げているそうですね。その使い方と効果についてお話しいただけますか。

栗原 私が特にフランクリン・プランナーの効果を感じているところは、「価値観を見つめ直し」という仕組みです。これによって仕事に対する動機付けが大きく変わりました。自分が一番大事にしていることは何なのか、その優先順位を見つめ直し、それをマンスリー、ウィークリー、デイリーといったひな形に落とし込んでいくことで、自然と仕事の効率が上がっていくのです。



■赤荻 聡（あかおぎ・さとし）

フランクリン・プランナー・ジャパン株式会社セミナー事業部ファシリテーター。大学卒業後、大手不動産、外資系生命保険会社を経て、外資系IT企業に入社。営業、社員トレーニングコーチを経験。その後、外資系コンサルタント企業フランクリン・コヴェイ・ジャパン株式会社に入社。研修事業の営業、フランクリン手帳の販売に携わり、平成22年よりフランクリン・プランナー・ジャパン株式会社にて講師および営業マネジメントを行っている。

「だからこそ、価値観を考慮するための時間を捻出するのは難しいのです。なかなか手を付けられない。順番としては逆になるのですが、フランクリン・プランナーは、まずその時間を生み出すというところから入っています。価値観を見つめ直し、優先順位を明確にすることで、今まで10時間かかっていたことが、7時間で済むようになる。余った3時間で価値観についてさらに見つめ直す。あるいは自己啓発に使っていいし、ライフバランスを整えることに役立てていい。これを組織として繰り返していくことで、大きな成果が期待できると思います。」

—— 自分の価値観に基づいて仕事の優先順位を考えるとどこがポイントですか。
 栗原 この手帳は価値観から優先順位までのプロセスが完璧にでき上がっています。ひな形にはめ込んでいくだけでいいので、とても楽なシステムだといえるでしょう。
 実際に私自身が、この手帳によって日々の行動にも優先順位が活かされるようになり、締め切り順に仕事が片付くようになっていきました。使い始めて1週間程度で、そのような成果が出始めたのです。細部が漏れても放っておいて、とにかく大事なことからどんどん進めてい

かるということだけでも大きな成果ですが、するとどうなるか。他人の価値観を知り、組織の価値観を知る。必ずズレています。しかし似た部分もあります。それが分かればすり合わせることでできます。そこから役割分担をしていく。
 その逆もあり得ます。ズレがあまりにも大きければ、離れようかという話になるかもしれません。しかし、それはそれで長い目で見ればお互いに幸せなことなのです。
 会計事務所などは特に、優秀な社員さんから辞めていくケースが多いですが、それは優秀な人ほど価値観を見つめ直しているからだだと思います。見つめ直して1回棚卸しをしている。そうでないとしたら、無意識に自分と組織の価値観にズレを感じている。それで離れていくのではないのでしょうか。これは私の実験から得た持論ですが、このように「価値観」は重要だということです。そしてその価値観を見直すことができるこの手帳は、そういうズレ、ギャップを埋める手段として最高のツールだといえます。
 —— 自分の手帳におのおのの価値観を書き込んで、それをお互いに伝えることで理解し合うことが大事だということですか。
 栗原 そうです。価値観合わせなどしなくても、目先の仕事に支障はありません。したほうがよいけれども、切羽詰まった課題ではない。だから



この手帳に記入する時間はすなわち、「自分が何を大事にしているのか」を見つめる時間なのです。仕事に忙殺される日々の暮らしのなかで、「自分はなぜこんなことをやっているのだろうか？」とふと思つたとき、手帳を開いて「こういう価値観のもとにやっていたんだ」と思ひ出す。似たような手帳は巷に溢れていますが、フランクリン・プランナーほど「価値観」という部分に重点を置いたものはないと思います。私自身は使い始めてまだ一年に満たないのですが、既にその効果は十分実感しています。何年間も滞っていた構想に着手するに至り、現在進行でどんどん進んでいます。それほど如実に効果が表れる理由は、やはり動機付けの部分にあるでしょう。自分の価値観に基づいたことしかやっていない。だから、モチベーションがまったく衰えないのです。

お互いの価値観を知り、理解し合うためのツール

—— それではそのツールを組織として活用していくというお考えはありますか。
 栗原 当然、考えていますし、その効果は絶大なものになると予想しています。まず、所員の一人ひとりがこの手帳を使って価値観を見つめ直します。価値観は皆それぞれ違う。それが分

かるといふことだけでも大きな成果ですが、するとどうなるか。他人の価値観を知り、組織の価値観を知る。必ずズレています。しかし似た部分もあります。それが分かればすり合わせることでできます。そこから役割分担をしていく。
 その逆もあり得ます。ズレがあまりにも大きければ、離れようかという話になるかもしれません。しかし、それはそれで長い目で見ればお互いに幸せなことなのです。
 会計事務所などは特に、優秀な社員さんから辞めていくケースが多いですが、それは優秀な人ほど価値観を見つめ直しているからだだと思います。見つめ直して1回棚卸しをしている。そうでないとしたら、無意識に自分と組織の価値観にズレを感じている。それで離れていくのではないのでしょうか。これは私の実験から得た持論ですが、このように「価値観」は重要だということです。そしてその価値観を見直すことができるこの手帳は、そういうズレ、ギャップを埋める手段として最高のツールだといえます。

あらゆる企業に当てはまる問題だと思ひますので、企業の価値観を見つめ直して理念を明確に打ち出すためにも、この手帳をご活用いただきたいと思ひます。

人生を豊かにする フランクリン・プランナー

赤荻 今回お話ししたタイム・マネジメントに関しては、「7つの習慣」にも書かれています。7つのうち、「第2の習慣」と「第3の習慣」がそれに当たるのですが、そのポイントは「ゴールをリアルに思い描くこと」、そして「最優先事項から取り掛かること」の2点です。まさに栗原先生が仰る「時間を作るために、最優先事項から優先してタイムスケジュールに落とし、ていく」ということですね。そして、私たちがセミナーなどでお伝えしているのも、この第2、第3の習慣の部分になります。

では最後に、読者である会計事務所の先生方に一言ずつメッセージをお願いします。
栗原 フランクリン・プランナーを活用すると、間違いなく時間が生まれます。それによって、身近な例でいえば、会計事務所の20日過ぎのあの忙しさが劇的に改善されます。

また、われわれ税理士は、中小企業の役に立ちたいという高い志を持っているはずで、何

年も何十年も温めている構想、企画もあると思ひます。ところがそれができないまま、ずるずると現在に至っている。この手帳は、そういった構想を実現させる機動力になると思ひます。
赤荻 私たちフランクリン・プランナー・ジャパンは、税理士さんをはじめ、会計事務所でお働く皆さんにフランクリン・プランナーを活用して成功を収めていただくとともに、その体験をベロースにその顧問先である中小企業の方々への支援のひとつとして、こういったコンテンツをご活用いただきたいと願っています。

日本の労働生産性は先進国の中でもかなり低いとの調査結果も出ています。それはなぜなのか、ずっと考えているのですが、やはり「価値観」がキーワードになるのではないかと、最近とみに思うようになりました。それを中小企業の現場にお伝えしたい。

私たちは、日本の中小企業の生産性向上のために、少しでもお役に立ちたいという思ひを持っています。皆が幸せになれる世界を実現すること、すなわち社会貢献が当社としての「価値観」だからです。ですので、ぜひとも会計事務所先生方にもご協力を賜りたいと思ひます。
湯本 価値観の明確化、それがフランクリン・プランナーの最大のポイントになります。そこを時間管理の出発点として、時間を生み出していくのです。

一度しかない自分の人生をいかに有意義に過ごしていくか、それは栗原先生のお話にもあつたとおりだと思ひます。私もそのような生き方をしたいと思ひ、フランクリン・プランナー・ジャパンの代表取締役になりました。
ぜひとも、多くの方々はこの手帳を使って時間を増やしていただき、人生に喜びや達成感を実感していただきたいと思ひています。

本日は貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございます。皆様のさらなる発展を祈念しています。